

路地百選推薦書

推薦者氏名：鈴木 隆男

推薦する路地（のまち）の名称	宇都宮屋台横丁
所在地	宇都宮市日野町

【推薦する理由（路地のよいところ）】

昭和三十年代、闇市の中心地、日野町通りと交差するバンバ通りは、近郊の人たちにとってあこがれの場所でした。二荒山神社の参道には、花やしきがあって、仲見世が並んでいました。「バンバよいとこ 泣く子も笑う 私しゃバンブラ夜が好き」、これはバンバの賑やかな仲見世をぶらぶらとあるく楽しさを唄った歌です。立ち並ぶ店は「カラクリ覗きめがねや、吹矢の店、占い師、植木屋、かき氷や、牛肉一膳飯（牛丼屋）、煮込みおでん、カルメ焼き、ポテトやコロッケを目の前の大鍋の油で揚げて、揚げた後ソースをジュウっと浸して食べる串揚げ、文福屋の大福モチ、チンチンヤ屋のクジ付きお菓子、ピスケットなど、まさに泣く子も笑う天国」だったそうです。宇都宮屋台横丁はパルコの裏手、地産地消のもと、地元や生産者の顔が見える心のこもった食べ物を出すことやお酒もここでしか飲めないものを提供しています。

【写真添付】



路地	面積	約 1 ha	路地の延長	約 200 m
路地のまちの概要	まちの成り立ち、特色等	宇都宮屋台横丁がある日の町は、1568年に宇都宮城主となった蒲生氏は、郷里が江州日野町（現・滋賀県）だったことから、ゆかりの商人を、東勝寺跡（下の宮）へ住まわせたことが「日野町」名前の由来で、当時は「日野の人の町」と言われていました。日野町は、宇都宮大明神の参道近く、また釜川にも面しているので、昔から神参りの宿場となり道者宿を営む家が数軒在りました。 第二次世界大戦の戦災では宇都宮市は大きな被害を受けました。日野町も全焼、しかし、日野町の人々は焼け跡にもどり、バラックを建て始めた。ネオン看板を作り、新たに商売を始め、組合をつくり、復興に活躍しました。		

路地のまちの概要は記入できる範囲で結構です。それぞれの枠の大きさは各自で調整願います。